夕刊
磐城新聞
六月一日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）

おはなし草紙

島田忠夫

ラムプ屋の話

わたしの子供の頃町では未だラムプを點けてゐた。遊び呆うけて日暮になつてからあわてゝほやを掃除したりするとよく割つたものである。

その頃、町にランプ屋の若者がゐて、天びんで荷を擔いながら『ラムプ、ラムプエー』と疲れつぽい聲で呼び歩いた。ラムプに笠。ほやなどを賣るのであつた。

間もなく田舍町にも火力發電所が出來て、電燈が點くことになつた。珍らしがつてどの家でも點けたからラムプやほやはもう賣れなかつた……一年ほど經つて氣の小さい若者はとうとう氣がへんになつて了つた。

×

田舍町は、やがて大きな市になつた。若者は落ちぶれて乞食になり、ぼうぼうに伸びた髮には白毛さへまじつた。さて、子供たちからは『ラムプ屋乞食』と呼ばれて親しまれてゐるのだが、むかし『ラムプ、ラムプエー』と賣り歩いたことを、幼ない彼等は知つてゐまい。

名越の狐

むかし、鎌倉の名越に惡い狐が居つたさうな。よく小坪から出て來る漁夫が化かされては魚を取られたと。

所で小坪の漁夫に、氣のつよい若者があつてナ、おらだけは決して化かされんと言ふたげな。日暮にその若者が通りかかると、小狐がチョロチョロと名越の坂を走つて田んぼへ下りたとサ。見てるとナ、田んぼの藻草を肩へひつかけたり、おんばこの葉つぱを頭へ乗つけたりして、たちまち美しゆ女子に化けた相な。

あれ、あれ、あゝして人を化さすだが、と若者は追ひかけてナ、その女子をみつしりつかまへて、天びん棒でなぐりつけたとよ。するとその女子のなきごゑを聞いてどこからか立派な士が二人、馬でかけつけてナ、これこれ、何をするぞ、それなる御娘子は拙者たちの御主君のお孃さまじや、無禮を致すなッとひどウ叱つたげな。小坪の若者は何の何の、これは確かに狐の野郎でこさんすと言ひ張つたが、とうとうお士にしばられて了つたとさ。

そこへまた、お士は幾人も〳〵馬を飛ばして集つて來てナ、いよいよ無禮をした若者の首を切るといふことになつたとサ。若者は今さら悲しうなつて、オンオン泣いた相な、水の垂れるやうな刀を振り上げて、いざ首を切らうとした時サ、鎌倉建長寺のねらいお坊さまがそこを通りかかられた。これヨ皆の衆。何かは知らぬが、しばらく拙僧にその若者のいのちをお預け下つさい。その代、拙僧が弟子にしてこの場で髮をおろさせまする、とナ。若者は直ぐにお士たちの前で、わけもなくころころ坊主にされました。

ナムアミダブツ　ナミアミダブツ……

はてナ、ありゃ俺ア濱ハ若い衆だんべエ。わくら朝小坪から魚賣りに出て來た二人づれが、田んぼの中で一心に拜んでるその若者を見つけて、おウい、おウいと呼んだとよ。

ナムアミダブツ、アムアミダブツ……

やつぱり惡い狐に化かされたわけさ。ちよん髷をころ坊主にされちや外聞わるからうサ。當分は魚賣りにも出なかつたとよ。ハイ、これでおしまひ。（終）

五月相聞

國玉喜輝

（下）

○雲低く垂れてほの暗しみはろかす麓の村は小雨すらしも

○雨後の陽にいきれ立つ野をいゆきつゝすかんぽ嚙めば春たけにけり

○人を待つうすら明りの草の中しとど匂ふは桐の花かも

○蛙鳴く雨夜くだちに覺め居つつ耐ゆるすべなく人の戀しき

哭喜綱先生

珠墨　小野務平

識見高明文武全
唱來体育會名宜
恨多旅次忽長逝
況復萬邦爭技前

6月2日

△本能寺の變（天正一〇）△尾形光琳歿（享保元）△議會の詔書公布（昭和一一）△第二十回衆議院議員總選擧開票終了（同一二）

その日〳〵

○

自然に還れ　ルツソオ

新刊紹介

△國民法律顧問六月號（入會金五十錢、半年分一圓二十錢、一年分二圓二十錢、東京市荒川區尾久町五の一、一八一共會）

講談　隱密小天狗（おんみつこてんぐ）

(36)　中川雨之氏作　近藤鐵氏畫

溺れる者

『ねえ圭之助さま。あなたに捨てられてしまつたら、それこそ、この駒路は、世に頼りの無い獨りぼつちになつてしまつて、何處へも行く處はございません。わたしが可哀想だと思召したら、わたしに力を添へて、兄さんの迷ひの夢を醒まさせてもう一度もとの兄さんに歸らせてください。あなたに愛想を盡かされてしまつたら、兄さんは段々不幸の淵に落ちて行くばかりです』

駒路は、涙ながらに、賴むのであつた。

彼女と圭之助とは、語らひながらいま、暮近い路を歩いてゐる。

場所は、本郷丸山の胸突坂、ちやうど、その坂の名のやうに、二人は苦しい戀の惱みに、青春の胸を突かれながら、そろ〳〵と坂を下りて行くのであつた。二人は、つい今し方、坂の上菊坂町、本妙寺脇の圭之助、屋敷から出て來たところであつた。

『拙者は、永い間、俊作さんを信じ、尊敬して來たのに、無殘にも、この友情を裏切られてしまつて、こんな口惜いことはない。しかしそれは、皆兄さんが惡いんで、あんな兄さんを持つた、あんたは不幸だ、拙者は、それが氣の毒でならない。兄さんが、放蕩をするからといつて、何も知らない、あんたを苦しめるのは可哀想だ——だが、男の意地でさうしなければ、ならなくなつてしまつたのだ。拙者には、それが苦しい』

圭之助は、顏を上げて。喘ぐやうに嘆息した。その頭の上で、星がもう夕空に輝き始めた。

『しかし、この拙者が、獨りぼつちの人間で。親、兄弟もなく、又た武士の體面といふやうな小面倒な拘束に縛られてゐなかつたら。或ひは武士を棄てゝ、この江戸の土地を棄てゝ、あんたと一しよに、旅へ出て行くかも知れないがその親。兄弟は、みんな俊作さんの放蕩に愛想を盡かして、八方から寄つてたかつて拙者を責めるのだ。いくら言つたつて返らぬ愚痴だけれど窮屈な、固苦しい武家なんかに生れて來たのは、お互ひの損なのだ！』

人が來ると、急に話を止めて、素知らぬ顏をして歩いた。人が行つてしまふとまた語りつゞけたその圭之助の一語々々には、生々しい呪ひの血が滲んでゐた。

ところで、その俊作は。今朝早く家を出たきりで。例の如く午後になつても、歸つて來なかつた。

しかし駒路は、『ひよつとして、圭之助の處へ、行つてくれたのでは無いだらうか』と、萬一の念願を繋いでゐた。なぜなれば、俊作が、けいの様子といひまた、今朝家を出て行く折の素振といひどうも、そんな風に考へられてならなかつたのである

しかし、圭之助の處へ來てみて折角張り詰めてゐた彼女の氣持も空しく挫折してしまつた。俊作はてんで影も見せなかつた、といふのである。

絶望の底に落ちた駒路は今はもう、自分の力で、自分の活きる路を求めるより外はなかつた。彼女は、けい之助を屋敷から誘ひ出した。そして、溺れる者が、一筋の藁にでも縋らうとするやうに、ひたすら、けい之助の心に訴へるのであつた。

彼女の苦しむ以上にけい之助も苦しかつた。

二人はたうとう水戸屋敷裏、富坂町の稲荷前まで來てしまつた。

祝平市制一週年記念賣出し
期間……來ル6月3日ヨリ5日マデ3日間

愛市報國
一、我等の公會堂建設獻金として
一、出征軍慰問獻金
◎賣出期間中御買上高の一部をお客様の御芳名記入の上獻納致します
◇營業所獨得のサービス…金壹圓以上御買上の方に（但し化粧品は貳圓以上）
御家庭向實用品福袋 進呈
◇オタノシミとして……福袋のうち幸運者は、東寶映畫聚樂館御招待券が當ります
◇戰地慰問の詰合藥あります
キハツ油［小賣］いたします
平市古鍛冶町一〇番地・電話四四番
阿康藥局　藥劑師 阿部康雄
◇衛生相談に應じます

磐城の御みやげ品
物名 靈峰羊羹（名産柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本十錢
製造發賣元 小川郷驛前 平屋賣店

診療開始（十日ヨリ）
重田眼科
眼科一般 眼鏡檢定
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定 福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生 電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

難波醫院
內科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平市大町 電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波陸

一、レンタン
一、豆炭
各種特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス。
電話三二七番
平驛前 阿部石炭店

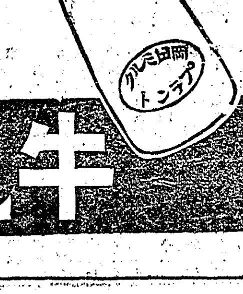
レストラン
サロン
食事 喫茶 酒場を兼ねた
平田町 電三二五二

耳鼻咽喉科專門 レントゲン科
高柳醫院
平驛前（電三六三）
醫學博士 高柳博明
看護婦募集

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町（電話五八番）藤田女學校前
「入院のお需めに應ず」（看護婦及び見習看護婦募集）
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木政
內郷村高坂 磐炭病院前
鈴木醫院

晝夜診療
外科一般 內臟外科 レントゲン科 泌尿器科
北川外科
［血液檢査每日］イツデモ入院デキマス。
平市新川町［電四六四］
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

低溫殺菌
斷然一賣行よし
信用と品質と共に備つて
平市鎌田町 電話五一



岡田牛乳

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平市・九品寺前

平市二丁目
あまこ自動車商會
電話六四〇番

諸橋氏再度の寄附で 市公會堂日本間出現

來月末頃完成見込つく

輝かしい市勢の躍進を外形的に整備する新段階の平市公會堂新築工事は起工以來極めて順調に進捗し、工費八萬圓の本館は案外早かつた起債認可を得て來月一ぱいに完成の見透しが附いて居る外、追加計劃の日本間(四十八疊二室)建築も超愛市的觀念から曩に五千圓を寄附した諸橋久太郎氏に對し最近更に青沼市長、野崎、遠沼正副議長外委員から懇請の結果殘餘の不足額も寄附の內諾を得るに亘つたので諸橋館とも謂ふべき該日本間も之亦向後二ヶ月位の間に完成し彼此關聯の市公會堂は市將來の膨脹發展方面を指針する南郊に一大偉容を現出する譯である

市長さんも三百圓追加

明後三日から再募集

公會堂の寄附金募集は更に明後三日から引續き委員が手分けして行ふことゝなり今一日午後三時から臨時委員會を開いて協議した

さきに前後四日間に亘つて行つたが其後青沼市長が三百圓を追加(前回二百圓)した外二、三からの寄附によつて既に四千百四十五圓に上つてゐる

この分で行けば一萬圓を突破するのはわけないことであらうと關係者一同張り切つてゐる

御親授式參列

光榮の地方會員

今秋東京で行はれる帝國軍人後援會御親授式に參列し徽章を御親授される光榮の高級會員中地方關係者は△六百圓(有功章)好間村小田吉治△五百圓(同)內郷村馬目太平治△三百五十圓(特殊)豐間村安田善一、內郷村四家又一、平市鈴木淸左衛門、高階一郎、高久忠、野崎滿藏、早智榮司、田中ハナ

濱三郡苗代品評會

濱三郡の苗代品評會は目下青山、柴田、吉成三技師により審査を急いで居り近く縣から審査長の古賀技師が來郡最後の審査をした上等級を決定する、褒賞授與式はこの八月の豫定

思ひは甦る

けふ自治制記念式

平市の自治制發布五十周年記念式典は市制實施滿一ヶ年の今一日をトして擧行された

午前九時先づ縣社子鍬倉神社で奉告祭を執行の上同十時から第一小學校講堂に別項物故功勞者の慰靈祭同十一時から記念式に移り、大廟、宮城遙拜、國歌齊唱、勅語奉讀の後昨報、永年勤續吏員を表彰、自治功勞者に感謝狀を贈り青沼市長の式辭官衙長富澤上席檢事、市會議員遊沼副議長、小學校長篠山第一校長、振興委員武田辯護士、區長小野金太郎各代表の祝辭、被表彰者代表井上茂作氏の答辭あり、記念撮影の上簡素な祝宴に市の萬歲を三唱、恰も去年の今日市制實施を祝福する旗の波が全市に溢れたと同じ刻限の午後一時散會した

尙ほ好間、鹿島兩村でも今一日同樣記念式典を擧行した

物故功勞者氏名

別項の如く慰靈祭を行はれた物故功勞者左の如し

△平關係＝(町長)石川櫂介 漆原昌德 鎗山惟誠 荒至重 村上濤鑲 川島至善 殿木甚治 伊坂員正 (助役)松本與三郎 鈴木萬次郎 祭主次英 小山語五郎 會田敏 鈴木滑爵 吉田三郎 荻逝 廣瀬銑一郎 遠藤長誠 (收入役)植村恕忠 (名譽職待遇者)松崎恒吉 堀江正直 山下捨吉 馬目爲太郎 鈴木堅助 山崎與三郎 谷口仁太郎 大谷久藏 小野園次郎 諸橋久太郎 大津賀善吉 明智淺吉

△平窪關係＝(村長)室直與 木田源一 本城藤一 木田勝次郎・(助役)大和田直澄 大和田銀藏 松本七郎治 松本三郎治 (收入役)上妻綱次郎 金成庄吉

木炭自動車隊來平

既報、ガソリン統制に伴ふ木炭自動車獎勵のため商工省斡旋の木炭自動車隊は來十一日午後三時來平することゝなつた、平署では同四時から同署會議室に濱三郡下自動車業者を招集普及講演座談會を開く

倶に聖旨を奉体し 自治の伸張に努めん

青沼市長式辭

別項—自治制發布五十周年記念式席上青沼市長の朗讀した式辭左の如し

平市制施行一周年に相當する本日の佳辰をトし自治制發布五十周年を迎へ各位の賁臨を辱ふし記念の式典を擧け併せて市制町村制施行以來自治行政百般に亘る功勞者の表彰を行ひますることは寔に慶祝に堪へざる所であります、去る四月十七日は恰かも我國自治の根幹たる市制町村制發布五十周年に當り內務省主催の下に其の記念式を東京市に擧行せらるゝや畏くも 天皇陛下の御親臨を忝ふし全國の自治關係者一同天顏を拜するの光榮に浴し優渥なる御勅語を賜はる微臣小職も此の輝しき盛典に參列するを得たるは無上の光榮でありまして自治行政に御軫念を垂れさせ給ふ聖恩洪大洵に恐懼感激の至りに堪へざる所であります、恭しく惟みるに明治天皇維新の大業を完成し給ふや深く叡慮を國內整備の事に用ひさせられ特に地方公共の利益を發達せしめ衆庶臣民の幸福を增進するの大御心より明治二十一年四月十七日を以て市制町村制を公布せしめ給ひ明治二十二年四月之れが實現を見るに至り爾來今日に至る五十年帝國は相踵いで幾多の難關に遭遇するも常に克く之を突破し史上に比類なき躍進を遂げ得たるもの是れ偏に御稜威に由る賜にして此間自治の施設も宜しきに適ひ國民亦和衷協力の至誠を獻け公共の精神愈旺盛を加へ邦家の進展に貢獻する所尠からず地方自治の基礎益鞏固ならむとするは邦家のため歡喜之れに過ぐるものはありませぬ

今や帝國は未曾有の國難に直面いたし重大の時局に處し擧國一体の下に東亞永遠の安定を確保せむとしつゝあるの秋職を地方自治の要職に奉ずるものは勿論官民相倶に聖旨を奉体し非常なる覺悟を持し粉骨碎身盡瘁以て健實なる自治の發達伸暢に努め愈よ隣保團結の實を擧け謹みて聖壽無疆を祈り奉り皇恩の萬分の一に報ひ以て皇運を扶翼し奉らなければならぬと確く信ずるものであります、以上聊か蕪言を陳へて式辭といたします

昭和十三年六月一日

平市長 青沼餘太郎

事變下の体位向上 先づ海水浴から

平、久の濱間臨時列車運轉

夏服にカンカン帽、細腰の蜿りも艶な輕羅の裝ひ。けふ六月朔日、世は擧げて夏の舞台へと旋廻した。赫つと照る陽射し、滿目の新綠はドス黑く噎せる、水が戀しい季節となつた、常に算盤上手な鐵道では事變下の体位向上は浴水浴から——と至つて尤もらしい適進標語を謳して海水浴季節の乘客吸收を計畫中であつたが此程愈よ左記臨時列車の運轉を決定發表した

△平—久の濱間(平發午前九時三十六分)
△久の濱—平間(平發午後四時二十五分)
△平—久の濱間(平發午前七時五十分)
△平—久の濱間(平發午前八時五十五分)

世はさまぐ

〇〇〇出齒龜男 上小川村上小川農渡邊高治(五四)は去る二十六日夜九時半頃同村阿部初と平窪の婚禮に招かれての歸途先廻りして阿部方に忍び込み初の妻タケ(三二)—假名に挑みかかつたが騷がれて未遂、平署で取調べられてゐる

手長酌婦檢擧

平署では三十一日夜內郷村綴某料理業松田クマ(二〇)—假名を檢擧取調べてゐる同人は手癖が惡く同僚から時計等を搔つ拂つた外遊客から金品を盜んだ嫌疑らしい

傷害男捕る

小名濱 小名濱町沖見町漁夫佐河忠利(二〇)—假名は二十六日夜同町カフエー小町瀬仲夫方で泥醉の揚句喧嘩、匕首で鹿島村佐藤三郎(三二)の下腹部を刺して瀕死の重傷を負はせ逃走中三十一日平署に捕はれた

〇〇鼠賊 內郷村竹の內無職加太誠七(二九)—假名は二十八日夜雜貨商吉村實方からタバコ、現金、萬年筆等(十圓)を竊取した外數件の盜みを働いて平署へ

白衣勇士——慰問の旅

熊田さん平入り

本國、滿支千ケ所廻りを念願とする白衣勇士慰問使——飯島市濱田町熊田三郎さんがけふ元氣な姿を平市に現した費用自辨で豫定は一ケ年、各地で魔術、漫談等

保健所店開き

實務は來月一日から

四月頃から開所を傳へられ乍ら容易に店開きに至らなかつた縣立平健康保健所は愈よ今一日開所されたが初代所長はかねて衛生課で選定中の處このほど青沼市長令息青沼淡夫(二三)氏と決定した同氏は京都帝大醫學部出身、昭和人絹錦工場に勤務してゐた人格圓滿な少壯國手で、同所では醫師、藥劑師各一名、産婆看護婦、衛生指導員各三名を擁し、實務は七月一日ごろから開始する模樣である

陣中を聽く

……………(160)……………

友軍苦戰の情報に 一段と心は張り切る

市內中鹽出身 吉田甚之助君(信濃)

——平市も市制第一年目を迎へ、道路の改修に公會堂新築に市長殿をはじめ役員御一同樣御奮闘の程深謝申上げます この御多忙の折我々出征將士に對して迄度々御慰問の御手紙を下され加ふるに銃後の護りに至る迄御配慮下さるとの事誠に感謝の至りに候

小生等上陸以來我が部隊は常に敵前第一線にあつて東北健兒の意氣を發揮致し上海戰に江陰戰に南京に又々中支我が部隊の存在は一大偉觀にて候、小生らの警備致し居る〇〇城は南面と西方に敵を擁し東方より度々敵の奇襲を受け其の都度敵に殲滅的打擊を與へ居り候、然るに此度〇〇〇此處の警備に着くとの事昨日入城致し候。小生等は再度立つてまた〇〇方面の敵を攻擊に向ふとの事其の準備に多忙を極め居り候。最近敵も全線的に抗勢に出て處々友軍の苦戰の情報に接し居り候、故に小生らも既に覺悟は致し居り候。而して銃後の皆樣に御酬ひ致すべく候、尙ほ慰問品御送り下され其のうち着くものと思はれ樂しみ居り候

最後迄奮闘

市內鍋宜町出身 伊藤光彥君

北支の戰陣に在りて御無音に流れまして誠に申譯ありません、何卒惡しからず私も四月二十日北支より〇〇攻擊に參加の爲め轉戰し五月三日浦口に着き只今〇〇市に居り毎日〇〇や〇〇の渡河作業に任じ居りますから何卒御休心下され度く。五月二十日誠心こめた慰問袋有り難く戴きました厚く御禮を申し上げます戰友達と喜んで頂きました皆樣の御思ひ配りにより戰陣に在りても平市の情況の手にとる如く知らされ只々感激致し居ります。

中支の空は酷暑です、銃後を護る皆樣に酬ゆる我等は如何なる勞苦も厭ひませぬ、必ず最後迄奮闘しますから御安心下さい、我等が作業も急々を要求されて居りますから之にて失禮させて頂きます、

五月二十日(以上二通青沼市軍事後援會長宛)

斯んなこともあり記

小名濱商港後日物語

(12) 赤井嶽男

此際順序は些か前後するが小名濱港問題に對する縣會の空氣を知る爲め當時の新聞記事を抄記する

鈴木辰三郎君(政) 小名濱港に對しては第二種港灣に指定されたいと再々本縣會の滿場一致を以て主務省並に港灣調査會に建議してあるものであるが國が同港に對して第二種港灣として指定された理由を此の場合詳細承はりたい

牛井內務部長 登壇 歷代の知事も建議の主旨により最全の努力をなしたのと國として國家的見地から東京と鹽釜との間に一ケ所の港灣の必要を感じ之が實現は地方産業を開發するばかりでなく航海業者にとりても非常な力强いものとしてその必要を認めたものであるとで同港を利用する事によつて海路による事が鐵路によるよりも年百三萬圓、新潟方面のものを經由せしむれば二十二萬圓合計百二十五萬圓の利益がある航海上に見るも大正十五年及び昭和二年度に見るも商船が二千五百隻漁船が千五百隻航海して居る事を數字をあげて答へる(昭和二年十二月十日)

石井康重君(民)『小名濱に關する縣の調査設計は杜選極まるものであるが縣は他府縣の築港の調査をしたか、本縣と比較調査をしたか、茨城縣の築港は影響無いか、更に完成後の縣下の經濟影響繁榮、それから三百間の漂砂と溜砂の可否、完成後の維持費如何』

牛井內務部長 登壇〜質問に議場早くもだれ更に土木費一般に就てだら〜小名濱港問題に賛意を表されたことを感謝してから『綿密の基礎に基き調査設計したもので遺憾の點のないことを確信する……』と各縣の例を引く……大正六年の漁港調査と平衡を調査してゐる茨城縣には小名濱漁港の如き優良な港は出來ない』

中川土木課長『防波堤の位置は心配ない……と漂砂給水などに就てそれぐ答へ……完成後の維持費は今から豫斷出來ない』

吉田弘次君(民) 小名濱築港は茨城縣磯濱港の二の舞を演ずることなきか更に調査の必要ないか』

牛井內務部長『前申すとほり永年研究したところで心配は無い今工事を延期すれば絶好の機會を失する憾がある』(同十三日)

吉田上等兵戰死

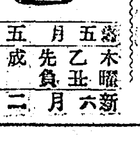
磐崎村下湯長谷子之松氏長男兩角部隊上等兵吉田一郎君は去る二十日戰死した旨原隊發表實家は蒟蒻製造業、兩親と弟妹五人ある

〇〇〇〇〇吉成技手審査 郡駐在吉成技手は左記農事審査を行ふ

一日夏井村二毛作品評會 二日草野村同 三日豐間村苗代品評會

一日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前五、四〇 後八、二五
干潮 前〇、三〇 後一、二五

新六月二日 木曜
舊五月五日 乙丑 先負 成 斗宿



▲一白 人の世話事は斷り得らるゝ丈け斷るがよし▲二黑 家內に風波なければ事業は自から進むべし▲三碧 あびの風は息まんより來るうで一杯に働くべし▲四綠 今日の地位に安んじ心を動かさぬのが安全▲五黃 平穩無事田園に身を養ふこと尤も可なる日▲六白 油斷せず又强氣强ければ何事にも成功の日▲七赤 平運なれども餘りに先走り見越しての事は誤多し▲八白 不十分なる運氣なる事を自覺し注意すべし▲九紫 待ちに待ちたるかん難の日和と成たる如き日

銃後の鍛へ……スポーツで

運動製作

ランニングパンツ
半袖シャツ
アンダーシャツ
トレーニングシャツ
パンツ
野球ユニホーム
庭球ユニホーム

特賣

ス・フ混入なき品澤山有ます お安く御願ひ致します

有名なる理科學研究所製
理研防織ワイシャツ 特約販賣
柄行流行 六種 二、五〇均一
白無字

靴と運動具なら なんでも豐富に揃つて居る

大塚へ 平市田町 電話七十七番

◆見習……募集

眼鏡

メガネは正確にして廉價

最新式各國製レンズ

富豊に取揃へて御座います

(亂視用眼鏡即時調製)

◎小店員募集 十四、五才ノ者

根本時計店 平市二丁目 電話七六